

令和6年能登半島地震への対応等について(活動状況:抜粋)

(参照:令和6年能登半島地震有限会社いるか乃里 対応一覧表)

○ 令和6年1月1日(月) 16:10 能登地方に震度7の大地震が発生!

- ・コロナ禍明けの元旦の夕方に、数千年に一度の大きな地震が発生し、能登半島全域に大規模な地殻変動がおき、未曾有の大災害が発生した。能登半島の2市(輪島市・珠洲市)2町(能登町・穴水町)のみならず、七尾市、中能登地区全域、内灘、富山県、新潟県等にも被害が及んだ。
- ・大地震の発生で、大きな揺れ、津波、がけ崩れによる住宅の倒壊、道路の寸断、津波による大規模な被害が発生した。
- ・当事業所では、幸いにも頑強な岩盤の上に立地していたことで、施設への物的被害はなく、ディルーム暖炉後ろの断熱ブロックが落ちた程度で済んだ。が、停電・断水の影響がが大きく、当日勤務職員4名、役員3名で宿泊利用者8名の安全を確保した。

○ 地域避難民の受け入れ

- ・1/1の地震発生直後から、大津波警報が発令される中、上野台に大勢の地域住民の方多数が避難してこられ、ケアホームでは避難民36名、グループホームでは28名(名簿記録のある方)が、大きな余震が続く不安な夜を、安全を求めて泊まれた。被災3日目くらいから、徐々に自宅に帰って行かれ、最終避難民は1/11朝まで受け入れを行った。
- ・その後は、地域自主避難民のほか、介護を必要とされる小木中学校からの要配慮者避難者2名の受け入れを行った。後日、受け入れたその避難民の方からコロナ陽性反応があり、緊急隔離体制に入った。が、感染が施設内に拡大し、感染された方から順次、隔離と二次避難先の手続きを開始した。

- 停電への対応...緊急時対応の為、準備してあった非常用電源発電機を稼働し、発電し、施設内への電気の供給を開始。これにより、炊飯器・IH調理器・湯沸かしポット、各個室のエアコン、非常用避難経路表示等の主要各所への電気の供給が可能になった。避難民の方のスマホや携帯電話への充電希望の方も、時間の経過とともに増え、全ての電源燃料のガソリンの確保に奔走しなければならなくなった。停電の解消は、1/5の19時に通電再開。

- 断水への対応...当初は、緊急備蓄品の飲料水で対応するしかなく、水の確保に苦慮した。トイレは、水が流れず浄化槽のつまり防止の為、紙を流さない対応をとった。地域避難民や周辺避難者のトイレ難民の方も多数おられ、全ての方に、施設内のトイレを使用していただいた。生活水の備蓄はなく、すぐに底をついたため、生活水の確保のため担当職員を配置し、山水や用水路での取水作業で急場をしのいでいた。毎日の水汲み、飲料水の確保のために奔走を繰り返し、3/9に生活水の通水開始、3/16に飲水可となり、断水は解消した。

- 情報確保への対応...停電の為、施設内のWi-Fiは使えず、当地域でのスマホも不可。一部地域で、携帯電話(ガラパゴス携帯)は使えたとのこと。そんな中、幸いにも、能登町のケーブルテレビでの情報収集は可能だったので、毎日終日、テレビでの情報収集を行った。被災後3日目に、事業所のWi-Fiは復活した。

○ 地域支援と事業所活動

- ・被災直後は、宿泊利用者の方のお世話をしながら、地域避難民の受け入れと、皆様の食事の準備、水の確保、避難所としての運営等を、被災直後からの職員4名と役員3名で行ってきた。様々緊急的に起きてくる物事に、適切に対応するため、多忙をきわめた。日を追って徐々に、自宅で被災した職員も勤務に出て来れるようになったが、被災直後から勤務が続いていた職員が帰宅できたのは1/8だった。以降は通常勤務に戻った。ただ、珠洲市の職員は9日から勤務開始。輪島市町野在住の職員は、3月いっぱいに加賀地方での二次避難で過ごしており、4/1から業務に復帰した。
- ・地域住民への支援として、発災直後から、避難民の受け入れと同時進行で、地域避難所等へのおにぎりなどの炊き出しを1/5まで行った。非常用電源で炊飯が出来た事から、地域の姫交流センターや旧真脇小学校、小木小学校、小木中学校への炊き出しのおにぎりの提供を重点的に行った。
- ・発災直後には、特に地域の方住民(姫町内会様、利用者ご家族様、避難民の方)からの支援をたくさんいただき、特に水の確保や、ガソリンの入手、野菜や緊急用品の提供や支援を受けとても助

かった。また、日を追うごとに各関係機関・関係団体からの支援物資が多数届き始め、不足していた排泄用品や消毒用品、飲料水、緊急食料品、トイレ物資などの提供をいただき、少しずつ衣食住の不足品はなくなってきた。

○ 利用者様への対応

- ・地震発災時は、通常通りの宿泊者8名の利用者様が、ケアホームに居られた。地震発生でケガをしたりや異常が見られた方はおられず、ひとまず安心することが出来た。が、発災時に在宅に居られた利用者様方の安否確認に多忙を極めた。特に一人暮らしの方や、被災の激しい地区に居られた方などは、道路が寸断され、通信網が途切れ、連絡が取れない状況、職員が少ない状況での安否確認は極めて困難だった。
- ・そんな状況ではあったが、在宅の利用者様方の全員無事を確認でき、被災2日目くらいからは、地域の民生委員の方や自宅訪問した職員、ご家族の方が、次々と在宅利用者様方を連れて来られたので、一時避難として出来るだけケアホームで受け入れを行った。その後、地域からの受け入れ避難民の方からコロナ陽性者が出て、感染拡大防止策として順次1. 5次避難、2次避難の手続きを行い、安全を確保できる時まで避難する手続きをとった。
- ・その後、2次避難された方のなかには、加賀地区や金沢地区で、新たな介護サービスを利用されたり、ご家族の元で避難生活を続けたりされていたが、2月後半3月を過ぎるころから、徐々に「自宅に帰りたい」と言われる利用者様方からの連絡が増えてきた。

○ 介護ボランティア様方の受け入れ

- ・地震発生後、しばらく後の1/8頃に全国GH協会を通じて、介護ボランティアの受け入れの要望確認の問い合わせがあり、派遣希望をしたところ、DCATの介護ボランティア様(熊本県)に1/11~2名来ていただくことが出来た。
- ・以降、4/3まで、順次入れ替わり立ち代わり、全国から大勢の介護ボランティア様に来ていただき、介護現場業務の支援をしていただいた。(下記、参照)

班	期間	派遣本部名	所属法人名	都道府県	人数
1	R6,1,11~1,14	DCAT	特定非営利法人コレクティブ	熊本県	2名
2	R6,1,18~1,21	全社協	社会福祉法人敬仁会	白山市・福井県	2名
3	R6,1,20~1,26	社会福祉法人愛和会	社会福祉法人愛和会・宝塚	兵庫県宝塚市	1名
4	R6,1,28~2,3	〃	〃 ・高槻	大阪市高槻市	2名
5	R6,2,5~2,11	〃	〃 ・宝塚	兵庫県宝塚市	2名
6	R6,2,17~2,23	全社協	社会福祉法人 みなと寮	大阪府河内長野市	1名
7	R6,2,23~2,29	〃	社会福祉法人 みなと寮	大阪府吹田市	1名
8	R6,2,29~3,2	個人	個人支援	タイ在住	1名
9	R6,3,4~3/11	全社協	(株)ポラリス	岩手県盛岡市	1名
10	R6,3,18~3,22	全社協	社会福祉法人 桜井の里福社会	新潟県燕市	2名
11	R6,3,22~3,26	〃	〃	新潟県燕市	2名
12	R6,3,26~3/30	〃	〃	新潟県燕市	2名
13	R6,3,30~4/3	〃	〃	新潟県西蒲原郡	2名